

現状分析

「本町を取り巻く環境」

- 茨城県のほぼ中央に位置し、県庁所在地である水戸に隣接している。
- 町域の大半が平坦な地形となっている。
- 2つの高速道路と国道が町内中央を通過し、南に空港が位置する。
- 人口分布は長岡地域に多いが、町内全域に広く分布している。
- 通勤・通学ともに町内・水戸市が多く、生活圏内が町及び水戸市である。
- 自然的土地利用が約8割である。
- 湖沼周辺に多く公園が整備されているほか、町内に観光資源が多く点在している。観光客数は隣接市町と比較が少ない。
- 鉄道はなく、交通弱者対策としてデマンド型乗り合い型タクシーを運行している。
- 運動習慣がある人の割合が県平均と比較が高い。運動しない理由としては「時間がない」、「運動する場所がない」という回答が県平均と比較が高い。



「自転車の利用状況」

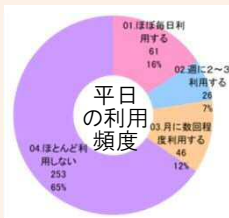
- 通学者における自転車分担率は40%を占める。一方、通勤者は2%と低く、自家用車の割合が高い。
- 主要な公共施設に駐輪場が整備されているほか、サイクルラックを町内事業者と連携して設置している。
- 自転車事故は、中学生・高校生の割合が60%(3箇年)を占める。通学時における事故を防止し、安全確保に向けた取組として「茨城町通学路安全プログラム」を策定、整備を進めている。
- サイクリングコースの提案並びに町内23箇所にサイクルサポートスポットの設置をしている。
- 湖沼自然公園において、シクロクロスの競技大会が開催されている。



自転車利用者の意識やニーズ把握

「町民アンケート調査(415名集計)」

- 自転車をほとんど利用しない人が70%程度いる一方で、家で使える自転車がある人も70%いる。
- 自転車利用の目的は、平日・休日とも通学が多くを占めるが、休日は、サイクリングやレジャーの移動で利用する人が30%を超える。
- 自転車を利用する理由として「手軽に使える、早く移動できるため」、「健康に良い、運動不足解消のため」の順に多い。自転車を利用しない理由は、「安心・安全・快適な自転車通行環境がないため」が上位に挙がる。
- 利用環境を向上させるため、「段差や溝のない、平坦で滑りにくい路面」や「自転車のみで走行できる自転車道等」、「ルール認知、マナーの向上」が求められている。また、子どもを乗り方教室に参加させたい人が80%を超えている。
- 自分の自転車を持っている人の約60%が自転車保険に加入している。(うち学生84%, 学生以外16%)
- 町内におけるシクロクロス大会、サイクルサポートスポットともに、認知度が低い。
- 通学において、バス停に駐輪場等の設置が求められている。



「サイクリスト調査(100名)」

- ※町内サイクリスト63名・シクロクロス大会参加者37名
- 町内を走行するサイクリストは町近郊からの訪問者でリピーターが多い一方で、初めて訪れる人も半数いる。
- 町内におけるサイクリストは、湖沼を周遊、大洗と合わせた町内立ち寄りが多い。
- ルート途中で飲食する人は多い一方、お土産は購入しない人が多い。
- サイクルサポートスポットは、「知らないが、あるなら利用したい」人が過半数以上を占める。
- シクロクロス大会は、県外からの参加者が多く、参加者以外の認知度は低い状況にある。
- 快適な自転車環境として、矢羽根等の自転車通行空間の整備や補修や休憩機能、自転車専用道や分かりやすい案内看板、マナーの向上が求められている。



上位・関連計画

- 茨城町第6次総合計画(平成30年3月策定)  
観光・交流資源の連携/新たな資源の掘り起こし/広域的な周遊ルートの開発/交通安全普及啓発活動の推進/安全対策・通学対策の推進/健康づくり支援体制の充実/スポーツ活動の普及促進 等
- 茨城町都市計画マスタープラン(平成28年3月策定)  
自然環境や文化・歴史的資源を活かした魅力ある公園・緑地/湖沼やその周辺の保全と利活用
- 茨城町都市構造分析調査業務(令和元年10月調査)  
拠点地域をつなぐ公共交通に加えて、歩行、自転車による移動可能な利用環境の整備
- 第2期茨城町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和2年3月策定)  
ヘルメット購入補助/湖沼水鳥・湿地センター(仮称)の利用促進/サイクルツーリズム推進
- 第2次茨城町健康増進計画・食育推進計画(平成28年3月策定)  
健康施策の中で「身体活動・運動」の推進
- 茨城町地域防災計画(平成25年6月改訂)/茨城町国土強靱化地域計画(令和2年3月策定)  
災害対応時の自転車等を利用/災害時の避難等に対する「交通事故等の回避対策」
- 茨城町教育振興基本計画(第1期計画後期)(平成30年3月策定)  
小・中学校通学路の安全対策/児童・生徒のヘルメットの無償配布及び購入補助

現状と上位・関連計画より、日々の暮らしから安全・安心な自転車利用環境が必要であり、レクリエーション等でのより良い自転車環境が求められています。  
このことより、『生活としての自転車活用』と『観光としての自転車活用』の観点から課題を整理します。

自転車利用環境に係わる課題

- <安全>
  - 通学等における自転車乗用中の事故発生頻度が高い
  - 学生以外の自転車利用者の保険等の加入率が低い
  - 非常時における避難等、対策が不十分な状況である
- <健康>
  - 運動する時間、場所がないという課題
  - 自転車を利用せず、自動車に依存している人が多い
- <道路>
  - 中学生の通学等、安全な通学路が求められている
  - 自転車通行環境(自転車道や舗装等)の充実を求める声が多い
  - 湖沼一周等、自転車ですりやすいルートが求められている
- <広報>
  - わかりやすいルートの案内看板や、休憩場所への誘導等が求められる
- <観光>
  - 隣接する市町と比べると、観光客数が少ない
  - サイクルサポートスポットやシクロクロス大会の認知度は低い状況にある
  - 町内のサイクルイベントに限られている

目指す方向性

生活面

◇ 通学や災害時の安全性を向上する

◇ 自転車を活用した健康事業を普及する

◇ 快適な自転車通行空間を整備する

◇ わかりやすい広報や案内を推進する

◇ サイクルツーリズムを推進する

観光面